

## 松木日向緑地プログラム 松木日向緑地の竹林整備

特別連携

加藤英寿先生（理学部生命科学科）

2022年8月6日（土）

### 報告

#### 「今年度最初の竹林整備」

8月6日(土)、「地域ボランティアプログラム（松木日向緑地プログラム）」の活動として、都立大・南大沢キャンパス内にある松木日向緑地の竹林整備活動を行いました。今年度初めての活動となり、7名の学生が参加しました。8月の活動には暑さの対策や虫の対策も必要となります。長袖長ズボンで、マスクは十分距離のある場合には外す、水分補給を小まめに行うなど対策を十分に行って活動しました。

#### 「この時期に整備をする大切な意味」

熱中症や虫さされ等のリスクもある中、なぜこの時期に整備を行うのでしょうか？この日は例年よりは気温の低い一日となりましたが、それでも動けば汗をかき、決してラクな作業とは言えません。こまめに水分補給をしながらの活動となりました。あまり活動には向かない時期ですが、この時期だからこそ整備をする大切な意味があると加藤先生が教えてくださいました。「8月～9月は若竹が成長する時期で、このまま放っておくとまた大きな竹にあってという間に成長してします。細くて切りやすい若竹のうちに駆除することに大きな意味がある。」とのことでした。

また、緑地には様々な植物が生育しており、中でも若竹と笹は一目では見分けるのはなかなか難しいです。その見分け方について分かりやすくレクチャーしていただきました。笹は節に皮が残っていて、竹には皮が残っていません。参加者からは見分けるのが難しいとの声も聞かれました。注意点を意識して、緑地に入りました。

#### 活動の様子



↑竹と笹の違いについて  
レクチャーする加藤先生→



#### 今回の活動場所：13号館裏



首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』, 2007より

#### 「当日の様子」

今年度プログラム初参加の学生にとって、足場の悪い緑地で慣れない鋸を持ち、安全のためのヘルメットを着用して緑地に入ることで自分が一仕事、といった感じでした。昨年度もプログラムに参加したサポーターの学生が1年目のメンバーに竹の切り方を教えたり、一緒に斜面に分け入ったりと自然と技術の伝承がなされていたことが印象的でした。暑さのため、短時間の活動となりましたが、緑地を理解する上で、大変貴重な活動となりました。今後も安全な活動が行えるよう、様々な面で気を付けながら継続していきたいと思っています。

#### 参加者の声

- ・新たな経験ができたことと、加藤先生から様々なことを教わったことが良かった。奥の方まで行ってもっと見つけられるようにすべかった。
- ・現場で直接加藤先生から竹の事などご指導いただき、理解が深まった。虫対策の重要性を感じた。暑さとらぎ楽しく作業できた。
- ・若竹は成長が早く処理する優先度が高いということを加藤先生からお聞きして、（竹かどうか見分けるのが大変でしたが）地面に這うように生えている若竹を切ることができたからです。将来的には竹を根絶するエリアのなかでも、新たに遅く生えてくる竹が多くなることを知り、竹を一掃することの難しさを感じました。
- ・初めて竹を切る人に、枝のそぎ落とし方を教えることができて、サポーターとしての役割を少し果たすことができたと思います。例年初めの活動のうちは様々な要因で怪我が起こりやすいため、慎重に落ち着いて取り組むよう活動前に周知したり、活動中の定期的な声掛け等を次回からは率先して実行したいです。